

資料4（別紙1）

市民生活実感調査の設問の基準案

設問文の言葉（ワードイング）に関する基準

基準1 政策評価制度における市民生活実感調査は、目的がどの程度達成されているかどうかを実感から市民に問うものであることから、**達成された状態を示す表現（「～である」や「～している」など）**を用いる。

基準2 施策には、比較的新しい内容のものや、現状の改善を内容とするものがある。このような場合は、現在までの推移の実感により問うことが適切と考えられるため、**過去との比較による表現（「最近の」、「～ようになってきている」、「以前より～なった」など）**を用いる。

基準3 通常より高い水準や充実した内容を目指していると考えられる施策、また、「～している」という表現では設問そのものが成り立たない場合は**「容易に」、「十分に」、「しっかり」**などを用いる。

その他の改善点

- ・より分かりやすい言葉の使用
- ・よりイメージしやすい場合は「京都は」「京都では」などを用いる。
- ・施策が手段の充実などを目指している場合は「～なので、～だ」のように手段や原因を限定する表現を使用
- ・事業を例示する場合は、市の事業ではなく一般的な表現を使用